

「ジブリ風」で鬼バズ、 ChatGPTの画像生成AIに “ある懸念”が広がる理由

22161274 川向癒雨

概要

OpenAIは、画像生成機能をチャットボットに統合することでGPT-4oによる高精度な画像生成とスムーズな対話を実現。

初週で130万人が利用するヒット機能となった。

一方で、スタジオジブリ風画像機能は著作権議論を再燃させるなど、AI画像生成の新たな課題も示している。

概要

- 刷新版GPT-4oの最大の特徴は、画像生成機能をモデル内に直接組み込んだ点にある。従来のDALL-E 3が外部サービスとして画像生成を行っていたのに対し、GPT-4oではチャットボットのコアシステムから直接画像を生成する。これにより、ユーザーやAPI開発者は、別のモデルを呼び出すことなく画像生成が可能となった。

概要

- 生成方法は極めてシンプル。ユーザーはChatGPTに「スタジオジブリ風のスタイルで」と指示するだけで、既存の写真を変換したり、新規画像を生成可能。
- この機能がソーシャルメディアで拡散。
- 多くのユーザーは生成された画像の質の高さに驚く一方、緻密な手描きアニメーションと細部へのこだわりにより、完成までに数年を要することに、対してAIが数秒で模倣的な作品を生み出すことは、クリエイターの労力と芸術性を軽視するものだとの指摘や、著作権の問題も浮上。

コメント

- 従来からファンアートや同人誌といった二次創作は存在しており、非営利かつ小規模な範囲であれば、著作権的にはグレーゾーンながらも実務的には黙認されてきた歴史があります。

そのため、生成AIによる画像も非営利なら一定程度は許容されるのではと感じます。

- アニメ調のものが簡単にクリエイトされていくことは、今後規制が増えていくことはありそうですが、逆に自分のアイデアを使ったビジネスのチャンスにも繋がりそう。

感想

- ジブリ風の画像を生成できたとしても、ジブリは映像作品であるため大きな影響はないと感じた。
- しかし、クオリティの高い映像が作られていくと思うので、どうするべきなのか意見を持つべきだと感じた。